

シーン別：認知症になってからの老人ホームの選び方

毎月高齢者住宅のいろいろな情報をお伝えしておりますが、今回から何回かに分けていろいろな状況に合わせた老人ホームの探しについてお伝えしたいと思います。



今回は高齢者住宅入居をご検討の方の状態によつての探し方をお伝えしたいと思います。右表の通り。施設探しのきっかけは認知症状が出てからのご生活の不安がほとんどです。



相談室に来られるご相談が多くが「認知症のお父(母)様にどこかよい施設を」とご家族様からのご相談です。今回は〈認知症での施設入居〉をキーワードに、施設選びの考え方やポイントについて、有料老人ホームを中心に紹介していきます。

認知症状が出てからのご生活の場としては次の5つの施設が考えられます。

1. 特別養護老人ホーム
2. グループホーム
3. 介護付有料老人ホーム
4. 住宅型有料老人ホーム
5. サービス付き高齢者向け住宅

上記施設の詳細は以前にお送りした介護施設の分類をご覧くださいと思いますが、お手元がない場合は当相談室のホームページをご覧ください。ご連絡をいただければ無料でお送りいたします。

特別養護老人ホームはお住まいの自治体で介護3以上になってからでないと入居申込みができません。グループホームは認知症がある

ご家族による老人ホーム探しのきっかけ (順不同)

- ・お薬の管理が自分でできなくなる。
- ・脱水症になり緊急入院。
- ・外出をして家に帰れなくなる。
- ・親戚や友人に理由もなく電話を掛ける。
- ・少し前のことや食事を摂ったことを忘れる。
- ・足元が不安定となり転倒、骨折して入院。
- ・食事の支度が出来なくなる。(火事が心配)
- ・一人での生活だと心配。(見守る人が必要)

支援2以上の方で、お住いの自治体でないと入居申込ができません。少人数での共同生活となっていて、洗濯や掃除・食事の支度などをスタッフと一緒にすることを基本としています。介護付や住宅型・サ高住は営利企業が経営しているところが多いです。

前述の特別養護老人ホームを公立の学校に例えるなら、有料老人ホームは私立校だと考えると分かりやすいでしょう。私立の学校は運営母体や方針により、校風が大きく違います。有料老人ホームも設立母体である企業や団体の考え方によって、サービスやコンセプトがガラリと変わります。

ご入居者様一人ひとりの状況や生活スタイルによって、理想となる施設は千差万別です。すべての人に相応しい介護施設はなかなかありません。予算だけではなく、本当の意味でご本人に最適な施設を見つけることが大切です。

ご入居者様が認知症の場合も、進行の度合いや症状によって施設を選ぶポイントが違います。施設選びの際に、一番気をつけなければいけないのは見守りの手厚さです。



一口に認知症といっても、具体的な症状や程度はさまざまです。重度の認知症で、ご家族のことが判らなくなったり、いつもウロウロと徘徊をされてしまわれる方と、多少の物忘れはあるにせよ具合のよい時にはきちんと会話ができる方では、相應しい施設はおのずと違ってきます。

よくご相談者様から「家のお母さんはまだらボケだから」と言われることがあります。実際にはこのような方のご相談が多いです。

ここでは、分かりやすく説明するために有料老人ホームを病院型とホテル型の2タイプに分けてお話しします。この分類は主に設備面についてのもので、受けられる介護サービスに大きな違いはありません。

まずひとつは、ホテル型の施設。これらの施設の多くは環境を重視した設備が特徴です。居室・共有スペースが広く、ゆったりとしています。ラウンジに絵画や応接セットが配置されているなど、一見するとホテルのような印象を受けます。施設によっては、入居者の健康状態に合わせて、別々の生活ゾーンを設定しているところもあります。

もうひとつは、病院型の施設です。病院型は居室はややせまい場合が多いです。これは、万一転倒した際に比較的安心であるためです。また、居室内の生活動線を配慮し、ベッドからトイレまで移動しやすく配置されていたり、施設によってはいろいろな装置を利用し、居室内の状況を常時サーチし、異常な状況をすぐ知らせるように工夫されていたりと、見守り重視の環境であるといえます。

重い認知症のご入居者様の場合、より手厚い見守りを期待できる病院型のホームをおすすめします。逆に、症状が軽いご入居者様にとっては、自分の時間をより大切にできて、自由な生活を楽しめるホテル型のホームが向いているといえるでしょう。

すべての施設がこの2タイプにきっちりと分類できるわけではなく、中間的な施設も数多くあります。お一人おひとりの状況に合わせて施設を選ぶ必要があります。



認知症から考える介護施設の2つの分類

ホテル型	病院型
設備の特徴	
<ul style="list-style-type: none"> ●居室が広い ●共有スペース（ラウンジ・食堂など）がゆったりと広い ●インテリアや調度品などが洗練されている ●施設により、健康状態等による生活ゾーンを別々にしている場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ●居室がせまい（転倒等を回避しやすい） ●室内設計に生活動線を意識（ベッドからトイレまでの距離が近いなど） ●共有スペースがあまり華美でない（生活のしやすさを重視）
認知症の症状・健康状態	
<ul style="list-style-type: none"> ●症状が比較的軽い（軽度の物忘れ、判断力の低下など） ●健康状態が良好 	<ul style="list-style-type: none"> ●症状が重い（重度の記憶障害、抑うつ、徘徊、攻撃的行動など） ●健康状態に問題がある

※上記はあくまでも一般的な介護施設をおおまかに分類した例です。すべての施設がこの区分にあてはまるわけではありません。詳細については各施設のパンフレット等をご覧ください。

認知症の場合、完全に回復して元のように元気になることは難しいのが現実です。現状を維持して（症状の進行を極力抑えて）、できるだけ長く健やかに生活を送ることが最善であると思われます。そのためにも、施設探しの際には、各施設の医療連携とリハビリテーションについて着目しましょう。これらのサービスの違いは、各施設の特色が出やすいところなので、比較検討する際にとっても有効です。

ポイント1 医療連携と通院介助

介護付き有料老人ホームは、協力医療機関と提携しています。しかし、提携施設が総合病院であるケースはそれほど多くありません。受診可能な診療科目以外での通院介助に関しては、施設により対応が異なります。家族の付き添いが必須かどうか、スタッフによる介助が有料かどうか等は見学へ行かれたときに、詳しく質問し確認ください。もちろん、大切な方の健康状態については、ご家族がきちんと知っておく必要があります。たとえ、施設側で全面的に通院介助を行うという場合でも、必要があれば通院に同行するなどしましょう。

ポイント2 リハビリテーション

近年、リハビリを重要視する有料老人ホームが増えています。特に、機能訓練士や作業療法士が常駐して入居者のリハビリをサポートする施設が多く見受けられます。認知症を発症した方の場合、ご自身が病気であるとか調子が悪いという自覚が薄いために、介護スタッフに言葉で希望を伝えることができません。それでも、入居者一人ひとりの健康状態に気を配り、運動や会話に参加してもらうことが、施設にとって力の見せ所です。施設が毎日の生活シーンの中でどのようなリハビリ（レクリエーション）を行っているかを詳しく調べてみましょう。

認知症の場合、患者の言動を頭ごなしに否定することは避けなくてはなりません。はなから駄目だと力で押さえつけるのではなく、時間がかかっても、当人の納得がいくような誘導をするなど、細心の対応が必要です。認知症介護を得意とする施設の場合、経験豊富なスタッフが、本人にストレスを感じさせず上手に誘導してくれます。入居者一人ひとりへのきめ細かいサービスについては、パンフレットなどからは推測できません。実際に施設を見学する際に、入居者に対するスタッフの対応を観察するとよいでしょう。



◆ご本人に代わっての施設選び、チェックポイントはここ！

ご入居様が認知症の場合、本人に代わってご家族が施設選びをしなければなりません。症状の程度や状況を考えて、前述したホテル型と病院型、どちらのタイプの施設がより生活しやすいかを判断する必要があります。重要なのは、入居者様ご本人にとって、もっとも必要な環境やサービスが一体何なのかをしっかりと見極めること。絶対はずしくない条件と、比較的優先度の低い条件とを整理したうえで具体的に施設を探すといでしょう。

すべての条件が希望に合致した施設を探すことはとても難しいです。その中でどうしても譲りたくない条件は何かを予め考えておきましょう。右のチェック表に挙げた項目を、ご自分の状況に照らして優先順位で並べ替えると、施設を選ぶための大きな手がかりになると思います。

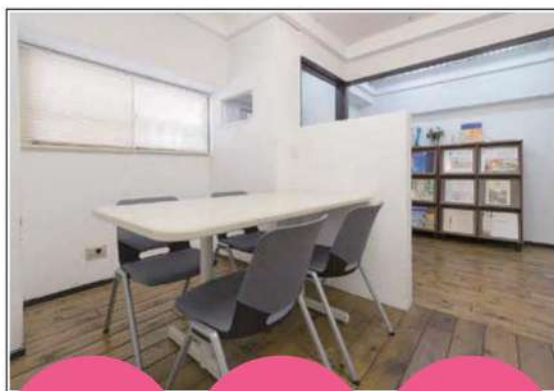
以下の項目に優先順位を設けたうえで、施設見学時にチェックしましょう

- 自宅（家族）からの距離
- 医療サポート体制（病院や医師との連携、病気になるたときの対応）
- リハビリテーション環境（機能訓練士等の体制、リハビリ施設の有無）
- 居室の広さ
- 施設の規模（入居者の人数）
- 共有設備の有無（理美容室など）
- 施設周囲の環境（公園のそば、海や山の近く、平坦なところなど）
- 入浴サービス（1週間の入浴回数など）
- 食事サービス（味はどうか、メニューを選べるかなど）

◆ご家族の支えが何よりも大切！

今回は一番ご相談の多い認知症になってからの介護施設入居について取り上げました。認知症であっても、そうでなくても、施設検討の一番重要なポイントは変わりません。つまり、何よりも大切なのは入居者ご本人様が楽しく生活できる環境を探すことという点に尽きます。ご入居が決まっても、ご家族としての役割がそこで終わるわけではありません。実際のお世話は施設のスタッフが対応してくれますが、ご入居者様にとって、ご家族とのふれあいこそが、最大

の喜びでありいちばんのお薬です。できるだけ頻繁に会いに行き、元気な顔を見せてあげてください。



プロの観点で
ご提案します

親身になって
万全サポート

相談費用は
いただきません

もしも迷ったときは ホームあしすと入居相談室へ

高齢者住宅のちょっとした疑問やご質問などがありましたら、「ホームあしすと入居相談室」へご相談ください。ショートスティのお手伝いも致します。

お陰さまで武蔵野市吉祥寺にて開業17年目を迎えました。施設を知り尽くしたプロの視点から、お一人おひとりに合った施設を探し、親身になってご提案いたします。施設の見学、ご契約、アフターフォローまで、万全の体制でご相談にお答えします。まずはお気軽にご連絡をください。お待ちしております。

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1丁目28-6-107
迦葉武蔵野第3

ホームあしすと
入居相談室

☎ 0120-428-165 <http://senior-support.co.jp/>

受付10:00~19:00（日曜・祝日は休み*）

ホームあしすと